

「あの日」をめぐるシンポジウム～自然災害時の危機管理～

2021年4月17日（土） （一社）日本観光通訳協会 特別企画 終了レポート

JGA シンポジウム実行有志

今年には2011年の東日本大震災から10年目にあたります。この年は他にも福島県浜通り地震、長野県北部地震、さらに台風12号などが各地を襲い、被害をもたらしました。

その後も日本は「かつて経験のない」「未曾有の災害」にしばしば襲われています。

全国通訳案内士が業務中に被災すれば、お客様の命を守り、安全を確保する義務が生じます。さらにツアー続行の可否、可能な場合の代替案、不可の場合の次善策など、誰に判断を仰ぐか、その為に必要不可欠な情報と効果的な提供の仕方はどうか、あるいは自らが判断すべきことは何か、など、その時々で様々な条件が重なる中では、明確な答え、正解はありません。出来る事は、日頃から、過去に学び、未来に備えることです。

その一助とするために、今回のシンポジウムを企画しました。

今回は Zoom オンラインでの実施、日本各地（北海道・千葉・埼玉・茨城・東京・神奈川・愛知・三重・大阪・京都・高知・鹿児島）から、会員 27 名が参加くださいました。

モデレーターには萩村昌代会長、パネリストとして、実際に東日本大震災の影響をガイドとして経験された第一支部の泉田俊英会員、伊藤淳子会員、山口留美会員（事前取材による録画にて出演）、矢木野副会長、第五支部の佐藤毅己会員にご出演いただきました。

会長からのご挨拶・今回の企画の趣旨説明・パネリストのご紹介に続き、東日本大震災のそれぞれの経験談の発表、振り返っての反省や学ぶべきことなどディスカッション、東日本大震災以外の経験とディスカッション、参加者から事前に寄せられた質問への答え、災害情報や防災のサイトの紹介など、2時間があっという間に過ぎました。直接災害に遭遇しなくとも、お客様が精神的に影響を受けてしまったり、以前にあるいは別の場所で起きた災害が思わぬ形でツアーに影響してきたりと、自分だったら、もしあの時にこんなことが起こったら、など、色々と考えさせられました。非常に内容の濃いシンポジウムとなりました。

（主担当：木脇祐香理
副会長）

